

# 2025年 野球殿堂入り顕彰者

## HALL OF FAME INDUCTEES



競技者表彰 プレーヤー表彰

### イチロー Ichiro

1973年10月22日生 愛知県出身  
右投左打 外野手

1991年のドラフト4位でオリックスに入団。94年に210安打を打ち、プロ野球史上初の200安打を達成。同年から2000年まで7年連続で首位打者を獲得した。マリナーズに移籍した01年には、首位打者、最多安打、盗塁王、MVP、新人王を獲得。04年、262安打でメジャーシーズン最多安打記録を樹立した。16年には、日米通算でメジャー最多安打記録を上回るなど、日米通算4367安打を記録した。06、09年にはWBC日本代表の主力としてチームを連覇に導いた。



競技者表彰 プレーヤー表彰

### 岩瀬 仁紀 IWASE Hitoki

1974年11月10日生 愛知県出身  
左投左打 投手

NTT東海から1998年ドラフト2位で中日に入団。1年目にリリーフながら2桁勝利をあげるなど活躍し、最優秀中継ぎ投手を3回獲得する。抑え投手となった2004年から14年まで、11年連続で20セーブ以上をあげ、最多セーブを5回獲得した。スライダーを武器にドラゴンズの守護神として5度のリーグ優勝、07年の日本一に貢献。1002登板、407セーブは日本記録。



競技者表彰 エキスパート表彰

### 掛布 雅之 KAKEFU Masayuki

1955年5月9日生 千葉県出身  
右投左打 内野手

1973年ドラフト6位で阪神に入団。3年目の76年に三塁手のレギュラーとなり、打率.325で初のベストナインを受賞する。79年は48本で初の本塁打王となり、82年には、35本塁打、95打点で本塁打と打点の二冠を獲得した。85年のチーム初の日本シリーズ制覇にも貢献。“ミスタータイガース”と呼ばれ、阪神の4番打者としてチームをけん引した。



特別表彰

### 富澤 宏哉 TOMIZAWA Hiroya

1931年7月25日生 東京都出身

1955年にセントラル・リーグ審判員となり72年に米国のアル・ソマーズ審判学校に自費留学。最新の審判技術を日本に採り入れた。80年にセントラル・リーグ審判部長に就任し、審判員の米国への留学制度を確立した。在籍35年間で歴代2位の通算3775試合に出場。現役を退いた後は、野球規則委員に就任。全日本野球会議審判技術委員会委員や全日本軟式野球連盟顧問(審判技術担当)を務めるなどプロアマの審判技術向上に貢献した。



阪神日本一に貢献した  
ミスタータイガース

掛布 雅之



富澤 宏哉

1002登板、  
407セーブの中日の守護神



岩瀬 仁紀

日米通算4367安打



イチロー

3775試合出場、  
後進の技術向上に  
貢献した名審判

映像シアターを150インチスクリーンにリニアリアル。大迫力の映像をご覧いただけます。



戦没野球人モニュメント。戦没した中学校野球・大学野球・社会人野球の選手の名前が刻まれています。

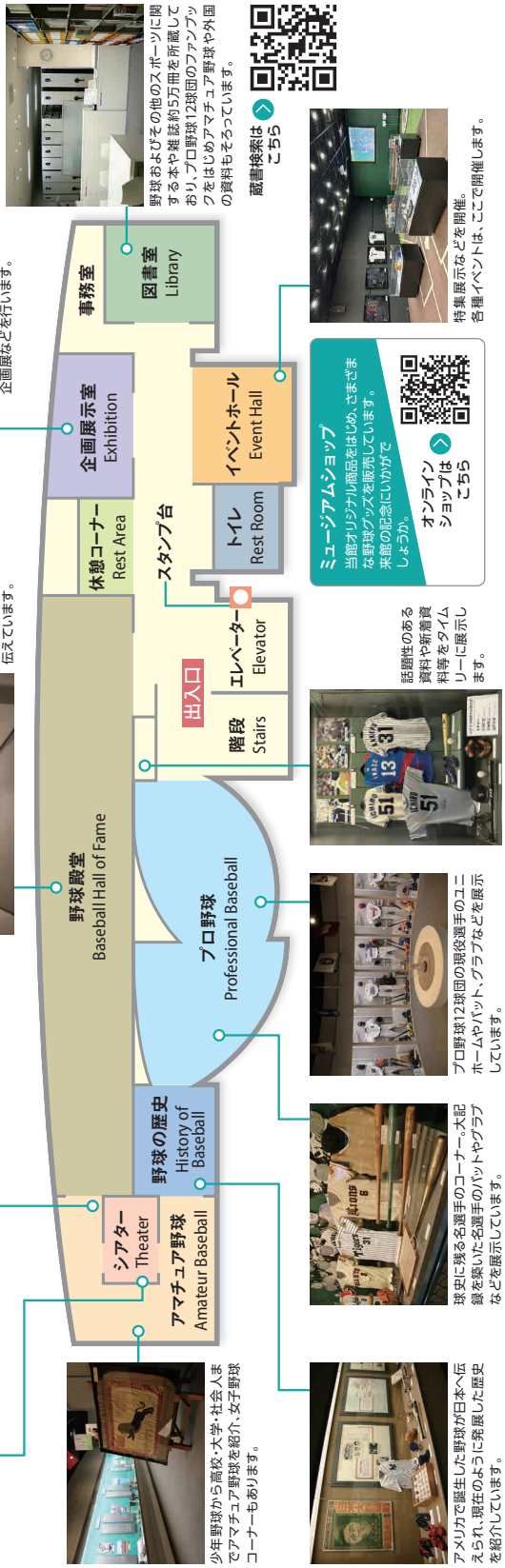


野球界の功労者を選出し野球殿堂入りとして表彰しています。格調ある雰囲気の中で、肖像レリーフがその功績を伝えています。



企画展などを行います。

館内案内図



少年野球から高校・大学・社会人までアマチュア野球を紹介、女子野球コーナーもあります。

アメリカで誕生した野球が日本へ伝えられ、現在のように発展した歴史を紹介しています。

球中に輝く名選手のコーナー。大記録を築いた名選手のトクトやクラブなどを展示しています。

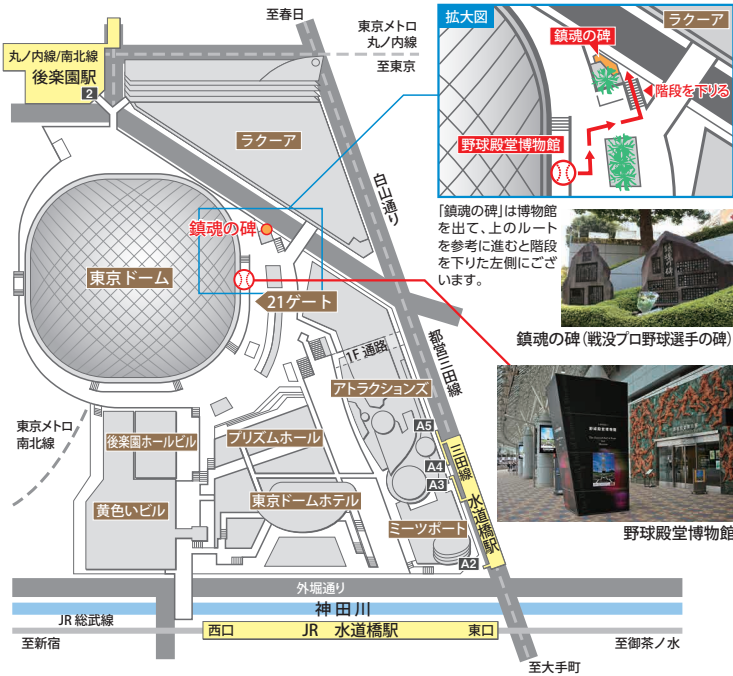
プロ野球12球団の現役選手のユニフォームやバット、クラブなどを展示しています。

話題性のある資料や新着資料をタイムリーに展示します。

ミュージアムショップ  
当館オリジナル商品をはじめ、さまざまな野球グッズを販売しています。来館の記念にいかがでしょうか。  
オンラインミュージアムショップはこちら

蔵書検索はこちら  
野球およびその他のスポーツに関する本や雑誌約5万冊を所蔵しており、プロ野球12球団のファンブックをはじめアマチュア野球や外国の資料もそろっています。

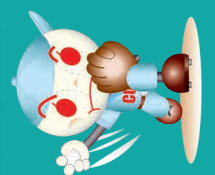
ここにスタンプを押してください!



**場所** 東京ドーム21ゲート右  
**入館料** 大人 800円(700円)  
高・大学生 500円  
小・中学生 200円(150円)  
65歳以上 500円  
※( )内は20名以上の団体  
**開館時間** 10:00~17:00  
※東京ドームでのプロ野球開催日は18:00まで  
※入館は閉館時間の30分前まで  
※再入館はできません。  
※休館日及び開館時間は変更となる場合がありますので、最新の情報は当館ホームページでご確認ください。  
**休館日** 月曜日(ただし祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み期間中は開館) 年末年始(12月29日~1月1日)

公益財団法人 **野球殿堂博物館**  
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61  
TEL. 03(3811)3600 FAX. 03(3811)5369  
<https://baseball-museum.or.jp>  
博物館 ☒ @BaseballHOF1959  
図書室 ☒ @librarybaseball  
YouTube 野球殿堂博物館【公式チャンネル】

The Baseball Hall of Fame and Museum 2025



公益財団法人 **野球殿堂博物館**  
2025年殿堂入り



# 野球の歴史

赤色の文字はアメリカや世界の野球の歴史です。

## 野球のはじまり

- 1845(弘化2)アレキサンダー・カートライトが今日の野球に直接つながる規則を作る。
- この規則による最初の試合が1846年、ニュージャージー州ホボケンで行われる。
- ニッカーボカー・クラブがはじめてユニフォームを着用。
- 青色長スボン、白口ロシヤツ、妻むら帽子。
- アマチナチームが集まり野球協会を作る話し合いを行い、9インク制の採用を決定(それまでは2点先取)。
- 最初の野球協会(National Association of Baseball Players)誕生。
- ハンリー・チャドウィックが記録法(ボックススコア)を考案。
- 南北戦争の後、西部や南部にも野球が広まる。
- 最初のプロチーム・シシナティ・レイズ・ストッキングス誕生。
- 最初のプロ野球協会(National Association of Professional Baseball Players)ができ、年間存続。

## 野球伝来から近代野球へ

- 1872(明治5)ホーレス・ワイルソンがベースボールを伝える。
- 現在のナショナルリーグが結成される。
- アメリカ留学から帰国した平岡 潔が、わが国初の本格的野球チーム
- 「新橋アソシエーション」を結成。
- 中馬 庚がベースボールを「野球」と訳す。
- 第1高等学校が横浜外国人チームに勝利し、野球人気が全国的に高まる。
- 現在のアメリカンリーグが結成される。
- ナリックとアリックの間に協定が成立し、ワールドシリーズが始まる。
- 早慶戦が始まる。
- 早大チームが初の米国遠征を行い、応援の過熱により、早慶戦が中止となる。
- 慶大が初めて外国チーム(ワイ・セントルイス)を招待し、有料試合を行う。

## 夏の甲子園大会が始まる

- 1915(大正4)全国中等学校優勝野球大会(現在の夏の甲子園大会)が始まる。
- 鈴鹿 栄が少年野球用に軟式ボールを発明。
- ワールドシリーズでシカゴ・ホワイトソックスの選手が買収され、シシナティ・レイズが勝つたとする事件(ソックス事件)が起る。
- 最初のプロチーム日本運動協会(愛浦協成)が誕生。
- 関東大震災の後、関西へ移り宝塚協会となるが、1906年に解散。
- ケネディ・マウンテン・ランティス判事が初代コミッショナーに就任し、ブラックソックス事件を解決。
- 全国選抜中等学校野球大会(現在の春の甲子園大会)が始まる。
- 甲子園球場完成。
- 秋季より早慶戦が復活、東大の加盟により東京六大学リーグ戦が始まる。
- 明治神宮野球場完成。
- 都市対抗野球大会が始まる。

## 日本プロ野球の誕生

- 1934(昭和9)ペーブルスから米大リーグ選抜チーム来日。
- 東京巨人、大阪タイガース、名古屋、東京セネターズ、阪急、大東京、名古屋金鯱の7球団により、日本職業野球連盟創設。
- 西宮(後楽園球場)完成。
- 戦争激化で学生野球は中止。
- プロ野球も一時休止となる。

## 戦後の復興、2リーグ制が始まる

- 1945(昭和20)11月18日に神宮で全大対全慶大を挙行。
- プロ野球も11月23日に東西対抗を行う。
- 学生野球、社会人野球、プロ野球が復活。
- ジャッキー・ロビンソン、初の黒人大リーグ選手となる。
- 横浜ゲリック球場(横浜スタジアム)でプロ野球の初ナイターが行われる。



文末の①マークは写真があるよ!



日本野球発祥の地モニュメント  
2003年、東京神田の学士会館(開成学校があった場所)に建立された。



第1回早慶戦出場選手

1903年に早大が慶大に試合を申込み早慶戦が始まった。06年、応援の過熱が問題となり中止になる。25年秋に復活、早慶明法立に東大が加盟し東京六大学リーグ戦が始まった。



第1回全国中等学校優勝野球大会参加記念メダル

1915年、全国中等学校優勝野球大会(現在の夏の甲子園大会)開催。1924年の第10回大会から甲子園球場で行われている。



1934年日米野球ポスター

1934年11月ペーブルスから米大リーグ選抜チームは全日本チーム等と16戦を行い全勝。12月には、この全日本チームを中心として大日本東京野球倶楽部(現在の読売ジャイアンツ)が誕生した。



1950年日本ワールドシリーズ優勝ペンナント

パ・リーグの毎日オリオンズが初の日本一に輝いた。

## 野球の国際化

- 1949(昭和24)サンフランシスコ・シールズ(A)が戦後初のアメリカプロ野球チームとして発足。
- セントラル・パシフィックの2リーグ制が始まる。
- プロ野球にコミッショナー制度がしかれる。
- 全日本大学野球選手権大会が始まる。
- テレビの野球実況放送が始まる。
- 6月12日、野球体育博物館(現、野球殿堂博物館)開館。
- ヒーストンに初の屋根付き球場「アストロドーム」建設される。
- プロ野球新人選択会議(ドラフト)が始まる。
- アナホリリーグともに12チームに増え、東西6チームずつの地区別となる。
- 10月10日、金田正が通算400勝を達成。
- アリックが指名打者(DH)制を採用。
- バリーグが2シーズン制を採用。(1982年まで巨人が9年連続日本シリーズ優勝)
- アリックが指名打者(DH)制を採用。
- アリックは6回に2チーム増え、14チームとなる。
- 9月3日、王 貞治がハンク・アーロンの記録を破る通算756本塁打を達成。
- 6月3日、福本 豊がルー・ブライクの記録を破る通算939盗塁達成。
- ロサンゼルス・オリンピックスの公開競技で全日本チームは金メダル獲得。
- 6月13日、衣笠祥雄はルー・ゲーリックの記録を破る2131試合連続出場達成。
- 日本初の屋根付き球場「東京ドーム」が完成し、野球体育博物館はドーム内に移転。
- ソウルオリンピックの公開競技で全日本チームは銀メダル獲得。



王 貞治選手  
756号ホームランボール  
1977年、ハンク・アーロン選手の大リーグ記録を抜く756号本塁打を放った。



開館当時の野球体育博物館

- 1992(平成4)プロ野球にフリーエージェント制(F.A)が導入される。
- アリックも4チームとなる。
- アナホリリーグとともに東、西の地区別となる。
- 野茂英雄(ジャッキー)がナリック新人王となる。
- アトランタ・オリンピックスで全日本チームは銀メダル獲得。
- アナホリリーグの交流試合が始まる。
- ナリックが6チームとなり両リーグあわせて30チームとなる。
- シドニーオリンピックでプロアマ合同の全日本チームは4位に終わる。
- 佐々木主浩(マリナス)がアリック新人王に輝く。
- イチロー(マリナス)がアリック新人王に輝く。
- 福岡ドーム(1993年)、ナゴヤドーム(97年)、西武ドーム(99年)に続き、札幌ドーム完成。
- アテネオリンピックで日本代表は銅メダル獲得。
- イチロー(マリナス)がジョージ・シスターの記録を破り、シーズン262安打を達成。
- 球団統合問題に端を発し、選手会が史上初のストライキを行う。
- セ・パ交流試合が始まる。
- アジアシリーズ初開催、日本(千葉ロッテ)が優勝。
- ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で王監督率いる日本代表が優勝。
- セ・パ両リーグの上位3チームが日本シリーズ出場を争うクラッシュバックが始まる。
- 北京オリンピックで日本代表は4位となる。
- 第2回WBCで原監督率いる日本代表が連覇を達成。
- 松井秀喜(ヤンキース)がワールドシリーズMVPに輝く。
- プロ野球が統球を導入。
- 第3回WBCで日本代表はスト4となる。



2006年WBC優勝トロフィー  
2006年、新たな世界大会、ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)が開催。王貞治監督率いる日本代表が初の世界一となった。

侍ジャパンの活躍  
2013年には、プロ・アマが「結束」し、すべての世代がひとつの野球日本代表となる「侍ジャパン」が誕生。トップチームを頂点とし、各世代の代表チームが活躍している。

2023ワールド・ベースボール・クラシック決勝戦ウイニングボール  
栗山英樹監督率いる日本代表が3度目の世界一となった。大谷翔平選手が投打に活躍しMVPを受賞。



- 2013(平成25)プロ野球が統球を導入。
- 2011(平成23)第3回WBCで日本代表はスト4となる。
- 2008(平成20)北京オリンピックで日本代表は4位となる。
- 2007(平成19)第2回WBCで原監督率いる日本代表が連覇を達成。
- 2006(平成18)王監督率いる日本代表が優勝。
- 2005(平成17)アジアシリーズ初開催、日本(千葉ロッテ)が優勝。
- 2004(平成16)西武ドーム(99年)、ナゴヤドーム(97年)、福岡ドーム(1993年)、札幌ドーム完成。
- 2001(平成13)アテネオリンピックで日本代表は銅メダル獲得。
- 2000(平成12)シドニーオリンピックでプロアマ合同の全日本チームは4位に終わる。
- 1998(平成10)佐々木主浩(マリナス)がアリック新人王に輝く。
- 1997(平成9)アトランタ・オリンピックスで全日本チームは銀メダル獲得。
- 1996(平成8)アナホリリーグの交流試合が始まる。
- 1995(平成7)野茂英雄(ジャッキー)がナリック新人王となる。
- 1994(平成6)プロ野球にフリーエージェント制(F.A)が導入される。
- 1993(平成5)アリックも4チームとなる。
- 1992(平成4)サンフランシスコ・シールズ(A)が戦後初のアメリカプロ野球チームとして発足。

ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で王監督率いる日本代表が3度目の世界一となった。大谷翔平選手が投打に活躍しMVPを受賞。

侍ジャパンの活躍  
2013年には、プロ・アマが「結束」し、すべての世代がひとつの野球日本代表となる「侍ジャパン」が誕生。トップチームを頂点とし、各世代の代表チームが活躍している。

2023ワールド・ベースボール・クラシック決勝戦ウイニングボール  
栗山英樹監督率いる日本代表が3度目の世界一となった。大谷翔平選手が投打に活躍しMVPを受賞。

プロ野球が統球を導入。  
第3回WBCで日本代表はスト4となる。

2008(平成20)北京オリンピックで日本代表は4位となる。  
第2回WBCで原監督率いる日本代表が連覇を達成。

2007(平成19)第2回WBCで原監督率いる日本代表が連覇を達成。  
松井秀喜(ヤンキース)がワールドシリーズMVPに輝く。

2006(平成18)王監督率いる日本代表が優勝。  
アジアシリーズ初開催、日本(千葉ロッテ)が優勝。

2005(平成17)アジアシリーズ初開催、日本(千葉ロッテ)が優勝。  
ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で王監督率いる日本代表が優勝。

2004(平成16)西武ドーム(99年)、ナゴヤドーム(97年)、福岡ドーム(1993年)、札幌ドーム完成。  
アテネオリンピックで日本代表は銅メダル獲得。

2001(平成13)アテネオリンピックで日本代表は銅メダル獲得。  
イチロー(マリナス)がジョージ・シスターの記録を破り、シーズン262安打を達成。

球団統合問題に端を発し、選手会が史上初のストライキを行う。  
セ・パ交流試合が始まる。

1998(平成10)佐々木主浩(マリナス)がアリック新人王に輝く。  
イチロー(マリナス)がアリック新人王に輝く。

1997(平成9)アトランタ・オリンピックスで全日本チームは銀メダル獲得。  
アナホリリーグの交流試合が始まる。

1996(平成8)アナホリリーグの交流試合が始まる。  
野茂英雄(ジャッキー)がナリック新人王となる。

1995(平成7)野茂英雄(ジャッキー)がナリック新人王となる。  
プロ野球にフリーエージェント制(F.A)が導入される。

1994(平成6)プロ野球にフリーエージェント制(F.A)が導入される。  
アリックも4チームとなる。

1993(平成5)アリックも4チームとなる。  
サンフランシスコ・シールズ(A)が戦後初のアメリカプロ野球チームとして発足。

1992(平成4)サンフランシスコ・シールズ(A)が戦後初のアメリカプロ野球チームとして発足。  
セントラル・パシフィックの2リーグ制が始まる。  
プロ野球にコミッショナー制度がしかれる。  
全日本大学野球選手権大会が始まる。  
テレビの野球実況放送が始まる。  
6月12日、野球体育博物館(現、野球殿堂博物館)開館。  
ヒーストンに初の屋根付き球場「アストロドーム」建設される。  
プロ野球新人選択会議(ドラフト)が始まる。  
アナホリリーグともに12チームに増え、東西6チームずつの地区別となる。  
10月10日、金田正が通算400勝を達成。  
アリックが指名打者(DH)制を採用。  
バリーグが2シーズン制を採用。(1982年まで巨人が9年連続日本シリーズ優勝)  
アリックが指名打者(DH)制を採用。

1975(昭和50)巨人が9年連続日本シリーズ優勝。  
アリックが指名打者(DH)制を採用。  
バリーグが2シーズン制を採用。(1982年まで巨人が9年連続日本シリーズ優勝)

1973(昭和48)アリックが指名打者(DH)制を採用。  
バリーグが2シーズン制を採用。(1982年まで巨人が9年連続日本シリーズ優勝)

1967(昭和42)アリックが指名打者(DH)制を採用。  
バリーグが2シーズン制を採用。(1982年まで巨人が9年連続日本シリーズ優勝)

1965(昭和40)ヒーストンに初の屋根付き球場「アストロドーム」建設される。  
プロ野球新人選択会議(ドラフト)が始まる。  
アナホリリーグともに12チームに増え、東西6チームずつの地区別となる。

1962(昭和37)6月12日、野球体育博物館(現、野球殿堂博物館)開館。  
ヒーストンに初の屋根付き球場「アストロドーム」建設される。

1959(昭和34)全日本大学野球選手権大会が始まる。  
テレビの野球実況放送が始まる。

1955(昭和30)セントラル・パシフィックの2リーグ制が始まる。  
プロ野球にコミッショナー制度がしかれる。

1952(昭和27)全日本大学野球選手権大会が始まる。  
テレビの野球実況放送が始まる。

1950(昭和25)サンフランシスコ・シールズ(A)が戦後初のアメリカプロ野球チームとして発足。  
セントラル・パシフィックの2リーグ制が始まる。

1949(昭和24)サンフランシスコ・シールズ(A)が戦後初のアメリカプロ野球チームとして発足。  
セントラル・パシフィックの2リーグ制が始まる。



第9回WBSC女子野球ワールドカップ優勝トロフィー  
侍ジャパン女子代表は第3回大会から24年の第9回大会まで7大会連続世界一を達成。



# Hall of Fame 1959-2025



殿堂入りリスト

野球殿堂は、日本の野球の発展に大きく貢献した方々の功績を永久に讃え、顕彰するために1959年に創設されました。  
2025年までに殿堂入りされた方々は222人です。

1959	正力松太郎 平岡 熙 青井 鋭男 安部 磯雄 橋戸 信 押川 清 久慈 次郎 沢村 栄治 小野三千麿	日米野球を成功させ巨人を創設 我国初の野球チームを結成 米チームを破った一高投手 学生野球の父 都市対抗野球大会を創設 初のプロチーム「日本運動協会」を創設 早大・函館オーシャンの名捕手 初期プロ野球界不滅の大投手 対大リーグ初の勝利投手
1960	V・スタルヒン 河野安通志 桜井彌一郎 飛田 忠順	プロ野球初の300勝投手 早大初渡米後フインドアップ投法を導入 第1回早慶戦勝利投手 穂洲の名で健筆をふるった早大名監督
1962	池田 豊 市岡 忠男	学生・プロの名審判 職業野球連盟初代理事長
1963	中島 治康	プロ野球初の三冠王
1964	若林 忠志 宮原 清	七色の変化球を投げた頭脳派投手 社会人野球協会初代会長
1965	川上 哲治 鶴岡 一人 井上 登 宮武 三郎 景浦 将	打撃の神様、V9達成の巨人監督 南海黄金時代を築いた名監督 第2代コミッショナー 投打に活躍した学生野球のヒーロー 猛打タイガースの強打者
1966	守山恒太郎	一高の名サウスポー
1967	腰本 寿	慶大黄金時代の名監督
1968	鈴木惣太郎 田辺 宗英 小林 一三	プロ野球草創期日米野球の交流に尽力 後楽園スタジアム第4代社長 宝塚運動協会・阪急球団結成
1969	刈田 久徳 三宅 大輔 田部 武雄 森岡 二郎 島田 善介 有馬 頼寧	華麗な守備の名二塁手 巨人、阪急の初代監督 攻走守揃った天才的プレーヤー 日本野球連盟初代会長 慶大・三田倶楽部名捕手 東京セネターズを結成
1970	天知 俊一 二出川延明 田村駒治郎 直木松太郎 中馬 庚	中日監督でシリーズ制覇 初代パ・リーグ審判部長 松竹ロビンスオーナー 野球規則を本格的に翻訳出版 ベースボールを“野球”と訳す
1971	小西 得郎 水野 利八	独特の語法で人気を博した名解説者 用具の生産・改良に尽力
1972	石本 秀一 野二 武二 太田 茂	広島カープ初代監督 審判の権威と信頼を確立 運動記者の草分け
1973	内海 弘蔵 天野 貞祐 広瀬 謙三	明大野球部長 学生野球協会第2代会長 スポーツ記録の第一人者
1974	藤村富美男 藤本 定義 野田 誠三	猛打の初代ミスタータイガース 29年で5球団を指揮した名監督 甲子園球場の設計工事責任者
1976	中上 英雄 小泉 信三	プロ野球完全試合達成第一号 学徒出陣社行早慶戦実施

1977	水原 茂 西沢 道夫 森 茂雄 西村 幸生	巨人第2期黄金時代の名監督 14歳でプロ入り、投打に活躍 早大監督で9回優勝 草創期のタイガースを支えたエース
1978	松本謙治郎 浜崎 真二 伊丹 安広 吉原 正喜 岡田源三郎	初代タイガース主将、猛打で沢村と対決 48歳で投げた小さな大投手 早大の頭脳的名捕手 巨人第1期黄金時代の強肩捕手 全ポジションを守った明大万能選手
1979	別所 毅彦 平沼 亮三 谷口 五郎	310勝をあげた南海、巨人のエース 東京六大学野球連盟第2代会長 大正時代の早大エース
1980	大下 弘 小鶴 誠 千葉 誠	“青バット”の天才打者 シーズン51本の本塁打王 “猛牛”といわれた巨人名二塁手
1981	飯田 徳治 岩本 義行 佐伯 達夫 小川正太郎	1246試合連続出場 神主打法で1試合4本ホームー 第3代高野連会長 社会人野球協会結成に貢献
1982	鈴木 龍二 外岡茂十郎	セ会長を長年務め、球界の発展に尽力 学生野球憲章制定に尽力
1983	三原 脩 内村 祐之	“魔術師”と称された名監督 第3代コミッショナー
1984	桐原 真二	早慶戦復活に尽力した慶大主将
1985	杉下 茂 白石 勝巳 荒巻 淳 田中 勝雄 山内以九士	フォークボールの大投手 巨人初期黄金時代の名遊撃手 「火の玉投手」と呼ばれたパ・リーグ初代新人王 早大で首位打者3度のスラッガー 野球規則・記録の研究、整備に貢献
1986	中河 美芳 松方 正雄	名物の守備で活躍した投手兼一塁手 タイガース初代会長
1987	藤田 信男 山下 実	法大初優勝監督 慶大黄金時代の強打者
1988	長嶋 茂雄 別当 薫 西本 幸雄 金田 正一 横沢 三郎 芥田 武夫 永田 雅一	“神宮の星”から“ミスタープロ野球”へ 天性の好打者、4球団の監督歴任 監督歴20年、8度のパ・リーグ優勝 400勝、4490奪三振 プロ野球草創期の名審判 早大の名外野手 東京球場をつくる
1989	島 秀之助 野村 克也 野口 二郎 池田 恒雄 伊達 正三	初代セ・リーグ審判部長 戦後初の三冠王捕手 延長28回完投の鉄腕投手 出版活動を通じ、野球界の発展に貢献 大リーグに挑んだ早大の鉄腕投手
1990	真田 重載 張本 勲 佐伯 勇	ノーヒットノーラン2度達成 広角打法で3085安打達成 近鉄パファローズオーナー
1991	牧野 茂 筒井 修 島岡 吉郎 中澤 良夫	高度なチームプレーを確立 選手から3000試合出場の名審判へ 神宮を沸かせた名物明大監督 春夏甲子園大会の基盤をつくる
1992	廣岡 達朗 坪内 道則 吉田 義男 吉田 正男	セ・パ両リーグで日本一監督 1000試合、1000安打第一号 今年若丸と呼ばれた名ショート 中京商業夏の甲子園3連覇投手

1993	稲尾 和久 村山 実	シーズン42勝をあげた西鉄の鉄腕エース 2代目ミスタータイガース
1994	王 貞治 与那嶺 要 廣岡 知男	一本足打法の世界のホームラン王 ハワイの日系二世 三拍子揃った名外野手 野球のオリンピック参加に貢献
1995	杉浦 忠 石井藤吉郎 呉 昌征 村上 貴	日本シリーズ全4戦全勝の南海エース アマ球界の強打者から全日本監督へ 俊足、強肩の名外野手“人間機関車” プロ野球草創期の阪急球団代表
1996	藤田 元司 衣笠 祥雄 牧野 直隆 保坂 誠	巨人のエースから名監督へ 2215試合連続出場の“鉄人” 第4代高野連会長 日本初ドーム球場建設
1997	大杉 勝男 山本英一郎	両リーグで1000試合、1000安打達成 国際派の野球人として活躍
1998	中尾 碩志 井口新次郎	速球派から技巧派へ、通算209勝 和歌山中、早大の名選手
1999	中西 太 瀬 叔功 古葉 竹識 近藤 貞雄 吉國 一郎	“怪童”と呼ばれた本塁打王 名外野手で盗塁王 カープの黄金時代を築いた名監督 投手分業制を導入 第9代コミッショナー
2000	米田 哲也 福島慎太郎	949登板、350勝の“ガソリンタンク” パ・リーグ会長を2度務めた
2001	根本 陸夫 小山 正明 武田 孟 長谷川良平	西武黄金時代の基礎を築く 抜群の制球力で歴代3位の320勝 日米大学野球開催に尽力 広島を支えた小さな大投手
2002	山内 一弘 鈴木 啓示 福本 豊 田宮謙次郎 中澤不二雄 生原 昭宏 F・オードル 正岡 子規	大毎ミサイル打線の中心打者 近鉄一筋、歴代4位の317勝 攻走守三拍子そろった盗塁王 15シーズンで打率3割以上7回 パ・リーグ初代専任会長 日米野球交流の中心的役割を果たす 日本の野球技術向上に尽力 野球を愛した明治の俳人・歌人
2003	上田 利治 関根 潤三 松田 耕平 ト・ウィルソン 鈴木 栄	熱血指導で阪急を常勝チームに 投手と野手でオールスター出場 大リーグを手本に球団改革を推進 明治5年に野球を伝えた“日本野球のルーツ” 軟式ボールを考案し野球の普及に尽力
2004	仰木 彬 秋山 隆	「イチロー」を誕生させた名監督 大洋初の日本一に貢献した大エース
2005	村田 兆治 森 祇晶 志村 正順	豪快な“マサカリ投法”で大活躍 日本一3連覇を2度達成した名監督 野球人気に貢献した名アナウンサー
2006	門田 博光 高木 守道 山田 久志 川島 廣守 豊田 泰光	怪我を克服し、史上最年長MVPに 攻走守三拍子そろったパックスの名手 独特のサブマリン投法で通算284勝 プロ・アマの協調体制を加速させる 西鉄黄金時代にクリーンアップを打つ
2007	梶本 隆夫 松永 怜一	9連続奪三振の阪急名左腕 優れたアマ指導者でロス五輪優勝監督
2008	山本 浩二 堀内 恒夫 嶋 清一	“ミスター赤ヘル”と呼ばれた広島の4番打者 リーグで16勝をあげエースとしてV9に貢献 夏の甲子園の準決勝、決勝でノーヒットノーラン

2009	若松 勉 青田 昇 大辻 義規 市島 君一郎	生涯打率.319の「小さな大投手」 「じゃじゃ馬」と呼ばれたホームランバッター 野球とチームを愛した日本ハム初代オーナー 日本野球発祥の研究をし、「日本野球創世記」を著す
2010	東尾 修 江藤 慎一 古田 昌幸	通算251勝、ライオンズのエース 史上初の両リーグで首位打者 都市対抗16回出場「ミスター社会人」
2011	落合 博満 皆川 睦雄	史上初の三冠王を三度達成 南海の黄金時代を支えたサイドスロー
2012	北別府 学 津田 恒実 長船 駿郎 大本 修	広島3度の日本一に貢献 速球を武器に“炎のストッパー”と呼ばれた 全日本アマチュア野球連盟の結成に貢献 「アオダモ資源育成の会」を設立
2013	大野 豊 外木場義郎 福嶋 一雄	80年代の広島黄金時代を支えた左腕 完全試合を含むノーヒットノーラン3度達成 小倉高のエースで夏の甲子園2連覇
2014	野茂 英雄 秋山 幸二 佐々木圭造 相田 暢一	トルネード投法で人気を博し日米で活躍 80、90年代を代表する俊足強打の外野手 “大魔神”と呼ばれ日米で活躍したクローザー “最後の早慶戦”の実現と戦後の野球復興に尽力
2015	古田 敦也 林 和男 村山 龍平	ヤクルト一筋の日本を代表する名捕手 日本リトルリーグ創設に尽力 全国中等学校優勝野球大会を創設
2016	斎藤 雅樹 工藤 公康 榎本 喜八 松本 山 山中 龍哉	11試合連続完投勝利の巨人のエース 西武等3球団で日本一11回の“優勝請負人” 50～60年代を代表する“安打製造機” 戦後の野球復興に貢献した国際派 六大学最多48勝、パルセロナ五輪代表監督
2017	伊東 勤 星野 仙一 野村 政次 平松 裕 鈴木 美嶺	西武黄金期を支えた名捕手 楽天を初の日本一に導いた“闘将” 「カミソリ・シュート」を武器に大洋で201勝 アマの名審判で、審判指導者としても貢献 日本野球規則委員会で中心的役割を果たす
2018	松井 秀喜 金本 知憲 原 辰徳 瀧 正男	“ゴジラ”の愛称で親しまれたスラッガー 1492連続試合全インニング出場の“鉄人” 巨人監督で3度日本一、第2回WBC優勝監督 中京商で選手、指導者として春・夏全国優勝
2019	立浪 和義 権藤 博 脇村 春夫	中日一筋、通算2480安打の名内野手 98年、監督として横浜を日本一に導く プロ・アマ交流の礎を築いた高野連会長
2020	田淵 幸一 前田 祐吉 石井 連蔵	阪神、西武で474本塁打を放った 慶大監督を経て、アジア野球連盟事務局長を務めた 早大監督を務め、日米大学野球開催に尽力
2021	川島 勝司 佐山 和夫	都市対抗3度優勝、アトランタ五輪代表監督 ノンフィクション作家、日本高野連顧問
2022	高津 臣吾 山本 昌広 松前 重義	日米通算313セーブを挙げた守護神 最年長勝利を挙げた、中日一筋32年の200勝投手 首都大学野球連盟を設立。野球の国際化にも尽力
2023	A・ラミレス R・バース 古関 裕而	2年連続でMVPに輝き、2000安打も達成 阪神優勝の立役者となった最強助っ人 時代を超える多くの応援歌を作曲
2024	谷繁 元信 黒田 博樹 谷村 友一	横浜、中日で通算3021試合出場の名捕手 日米通算200勝を挙げた広島のエース アマチュア審判員を経てプロでも活躍した名審判
2025	イチロー 岩瀬 仁紀 掛布 雅之 富澤 宏哉	日米通算4367安打 1002登板、407セーブの中日の守護神 阪神日本一に貢献したミスタータイガース 3775試合出場、後進の技術向上に貢献した名審判